

京都市立芸術大学 新たな機構・施設 整備方針（案）
（技術提案のテーマ② 参考資料）

「知と創造のコア/火床」「十字路としての芸術大学」に向けて

現行の図書館・資料館等に情報処理機能を組み込み、現在、大学が所蔵する図書や芸術作品などを全て芸術の創造や研究のための資料体（コーパス）として捉え直し、新たな視点での制作・研究・発信を可能とする為の施設・機能の整備についての検討を続けている。その為には、図書館・資料館に加えて、芸術資源研究センター、ギャラリー@KCUA、大学会館+情報インフラなど、各施設の機能の再配置と連携を強化した新たな施設が必要となる。（先行移転で提示されたテラス#0案との接続でもある。）新たな施設の整備は、本学に於ける、「知と創造のコア/火床」や「十字路」という、大学移転のコンセプトの実現のキーポイントの一つとなる。さらに、芸術大学が「地域に根ざし」、地域が有する多様な文化資源、技術、身体資源を創造的に活用しうる豊かな土壌を形成してゆく事へと発展するであろう。

必要となる機能

① コーパス収蔵スペースの確保と情報化の為のメディアのリサーチ機能

将来にむけたコーパス群の充実と情報化の為の、管理・研究が保証される為に十分な広さと機能を備えた保存施設が必要となる。また、専門図書を含む多様なコーパスの情報の調査・研究をささえるインフラ機能を備えていること。

芸術の情報に関する「知の拠点」となりうる。地域資源の情報化にも繋ぐ。

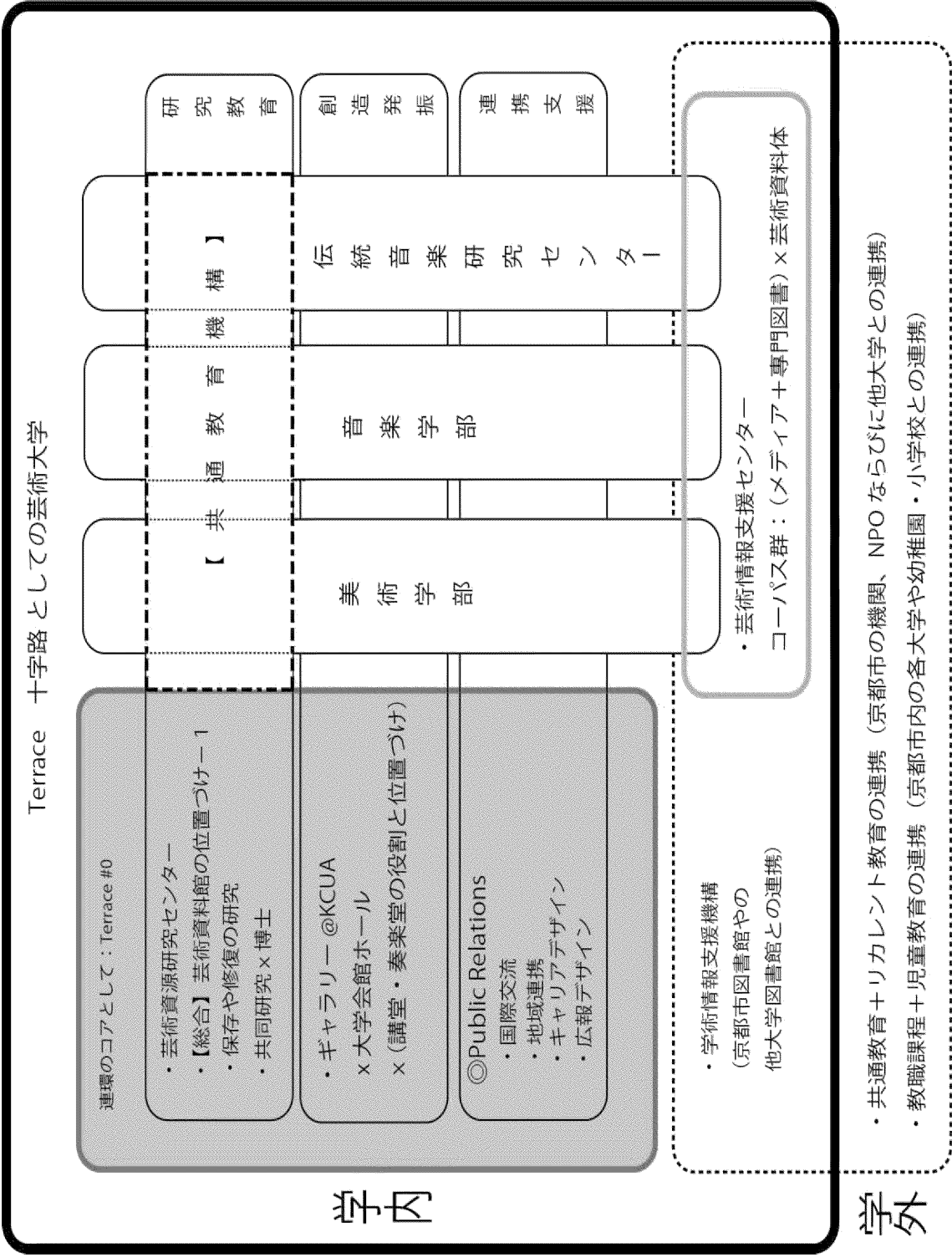
② 明確な機能

- ・ マネージメント「コーパスの創造的運用を支える」
- ・ リサーチ「コーパスを活用した先端的な調査と研究」
- ・ キュレーション「芸術や研究を新しい視点から社会に発信」
- ・ プロジェクト「外部資金などを活用した革新的な試み」
- ・ エンゲージメント「地域・社会・産業との連携促進」

③ 創造発信スペースの設置

展示プロジェクト、イベント・パフォーマンスなど多様な発表形態が可能となるオープンなスペース。先端的な創造に加え、教育・研究・地域連携による社会実験の場となる。

④ 「十字路的」な配置：創造的な出会いや交流が可能となる施設配置



参考図-1